

琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会
～リスクファイナンスと水源保全に関する取組状況について～

令和 3 年 3 月 25 日
本 部 事 務 局

1. 経過

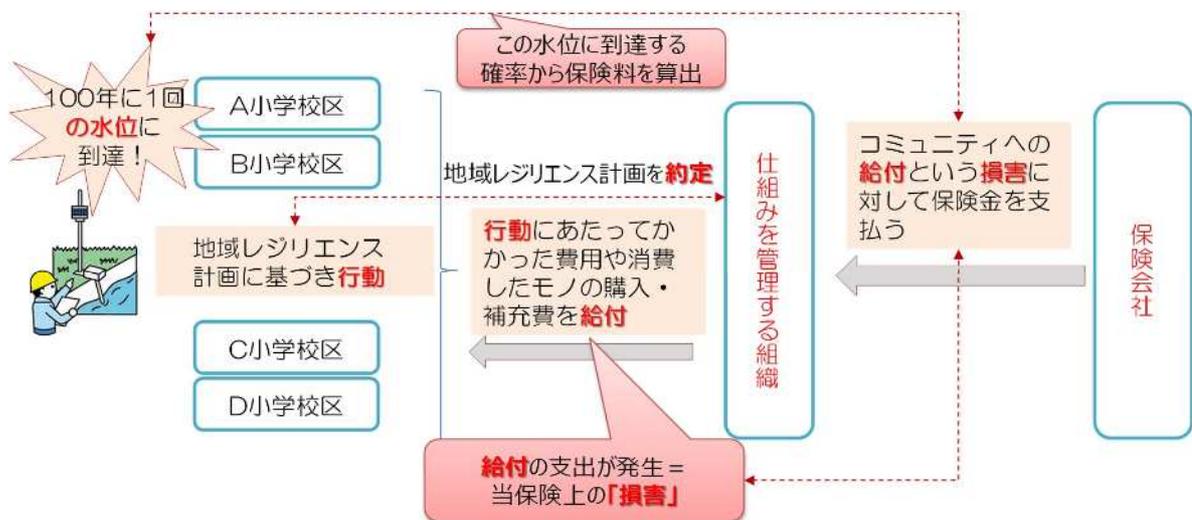
平成 26 年 7 月に琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会を設置し、平成 28 年 9 月に報告書が取りまとめられた。報告書に整理された課題の中から、広域的、分野横断的であること等の条件から優先して検討することとした 3 つの課題に対して、平成 29 年 6 月に部会を設置し、概略研究を進め、令和 2 年 3 月に部会報告書が取りまとめられた。

今年度は部会報告を基に、施策展開に向けた課題整理等を行うため、連絡会議（リスクファイナンス、水源保全）を設置し、流域の構成府縣市と議論をすることとなった。

2. リスクファイナンスに関する取組について

(1) 部会提案のコミュニティ水災保険制度《概要》

大規模水害時に、「公助」（公的支援）、「自助」（損害保険）では対応しきれない、地域における防災活動を経済的に支える「共助」としてのコミュニティ水災保険制度



(2) 今年度のリスクファイナンス連絡会議の開催状況

令和 2 年 6 月 8 日	第 1 回	部会報告書の内容に関する質疑	(書面)
令和 2 年 9 月 3 日	第 2 回	部会委員から報告書の説明	
令和 2 年 9 月 24 日	第 3 回	部会提案の保険制度の課題について	(書面)
令和 3 年 1 月 8 日	第 4 回	保険制度の課題について意見交換	
令和 3 年 1 月 22 日	第 5 回	保険制度の課題について意見交換	(書面)

(3) 部会提案のコミュニティ水災保険制度に対する課題（構成府縣市からの主な意見）

- ・コミュニティ水災マップの作成の必要性
- ・この保険制度に加入を促す流域全体での機運醸成の必要性
- ・地域レジリエンス計画に求める内容の具体化（保険金が活用できるメニューづくり）
- ・現状の浸水リスクに応じた保険料設定の必要性

(4) 今後の予定

令和3年度

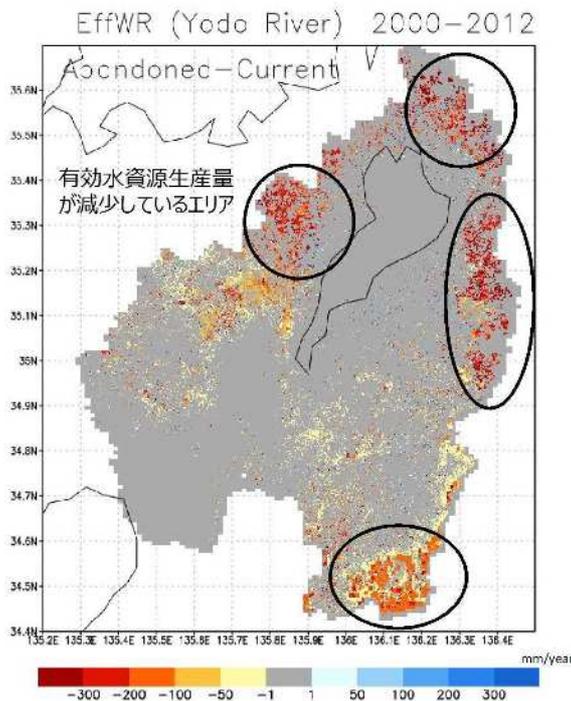
リスクファイナンス連絡会議を開催し、引き続きコミュニティ水災保険制度の社会実装に向けた課題整理を行う。

3. 水源保全に関する取組について

(1) 部会で行ったシミュレーション結果

将来森林、耕地の維持管理活動が低下すると想定した場合の流域の水循環をシミュレーションした結果、水道用水や農業用水等の供給源となる有効水資源生産量が、現状より減少するエリアのあることがわかった。

有効水資源生産量 = 降水量（雨+雪） - 蒸発散量 - 表面流出量 - 灌漑水量



【出典】水源保全部会委員京都大学防災研究所田中醫治准教授による計算・作図

(2) 今年度の水源保全連絡会議の開催状況

令和2年8月28日 第1回 部会報告書の内容に関する質疑（書面）

令和2年10月20日 第2回 部会委員から報告書の説明

(3) 流域水循環計画の策定を目指すことに対する構成府県市からの主な意見

- ・既に計画策定済みの県市もあり、新たに計画を策定する必要性を感じない
- ・上流域・下流域・琵琶湖周辺など、地域で事情が異なる中、淀川流域全体としての計画を策定する意義について、関係市町村の理解醸成が必要
- ・構成府県市の水源保全の取組をフィードバックできる情報共有の場を設けることから始めてはどうか

※流域の構成府県市が一体となって、流域水循環計画の策定を目指すことについて現時点では合意が得られていない。

(4) 今後の予定

令和3年度

水源保全連絡会議を開催し、引き続き流域水循環計画策定の是非について議論する。

4. 令和2年度 琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会の開催結果について

(1) 開催日時：令和3年3月5日(金) 15:00～17:00

(2) 場 所：京都ガーデンパレス 2階「鞍馬」 《Web開催》

(3) 出席者：中村委員（副座長）、石田裕子委員、角哲也委員、多々納裕一委員、
中川一委員

(4) 主な意見：

①プラスチック対策検討会の取組状況報告

街なかのごみ散乱状況をモデルで把握しようとしているが、散乱したごみが河川や海にどれだけ流出するのか、この研究会のテーマであるマイクロプラスチック海洋ごみの問題にどう繋がるか検討する必要があるのではないか。

②リスクファイナンスに関する取組状況報告

- ・流域全体で相互扶助の考え方を醸成するための啓発などの取組を並行して実施しないとなかなか保険制度に対する理解は進まない。
- ・今の被災時の復旧活動は完全にボランティア頼りであるが、ボランティアが集まらない時もあるので、そういう場合の復旧支援費用を保険の対象とすることを検討してはどうか。

③水源保全に関する取組状況報告

シミュレーション結果が具体的にどのような事象に繋がるのか、アウトプットを明確にすることで、流域水循環計画の策定等今後の目標設定について議論を展開できるのではないか。

